

〈国語〉

伝え合う力を高め、考えを広げる授業づくり

——目的意識を持った交流活動とOPPシートを通して（第5学年）——

那覇市立真和志小学校教諭 上 里 芳 乃

Ⅰ テーマ設定の理由

近年、我が国ではグローバル化や情報化などにより、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化し予測困難な時代となっている。そのような時代にあってこれからの子供たちには、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』（以下『解説国語編』）では、国語科において育成を目指す「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」は、児童が「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して育成することを目指す。」と示されている。このことから、学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係などの言葉への自覚を高めることが重要であると考ええる。

本校の児童の実態として、令和3年度の沖縄県児童生徒質問紙調査の結果から「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という設問に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童は71%であり県との差はマイナス7ポイントと大きく課題が見られた。

これまでの実践において、児童が伝え合う力を高め考えを広げる授業づくりを目指し、交流活動と学習ノートへの振り返りを行ってきた。交流活動においては、自分の考えを持たず交流し、ただのおしゃべりになってしまい「楽しかった」だけの活動や国語が得意な児童がリードし、苦手な児童は何も発さずに活動が終わる傾向が見られた。また、書いた文をただ読み合うだけの交流になることもよく見られた。さらに、自分の考えを伝える場面では、自信がなく抵抗を感じている児童も少なくはなかった。つまり、伝え合う力が乏しく、交流の前後で児童の考えに大きな変化がみられず交流の目的が達成できない課題があった。

その要因として、まず、自分の考えを支える根拠や材料が少ないこと。次に、交流活動を単元の後半部分に設定していたため、児童の考えや意見が固まっており、考えを伝えるだけの活動になったこと。そして、教師主導で交流活動を設定していたため、交流をする目的が不明確であり、交流の必要性を感じていなかったことが考えられる。振り返りや評価においては、学習ノートの記述を通して行っていたが、交流をすることによってどのように考えが変容したのか具体的に書かせることができず、児童の考えの変容を見取ることができず、評価に生かすことができなかった。

そこで本研究では、説明的文章の「読むこと」を中心とした単元を構成する。単元名を「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝えよう」と設定する。特に交流活動に主眼を置き、単元の中に計画的に位置付け伝え合う力を高めていく。また、交流前に自分の考えの基となる根拠を明確に持たせることを大切にするため、文章全体の構成を事例・根拠・意見の視点で捉えさせる。さらに、根拠を基にした自分の考えを交流し、考えを広げる。そして、変容を見取るためOPPシートを工夫し作成する。そうすることで、単元の学習を通して伝え合う力が高まり、考えを広げることができるであろうと考え本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

説明的文章の「読むこと」における学習において、自分の考えを支える根拠や材料を明らかにし、目的意識を持った交流活動に加えOPPシートを位置付けた授業づくりを行うことで、伝え合う力を高め、考えを広げることができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 伝え合う力を高め、考えを広げる授業づくりについて

(1) 「伝え合う力を高め、考えを広げる」とは

『解説国語編』によると、伝え合う力を高めるとは「人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めること」と示されている。また、『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』によると、考えを広げるとは「自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かす」と示されている。このことを本研究における「伝え合う力を高め、自分の考えを広げる児童の姿」と捉え、単元全体を通して研究を進める。

(2) 単元の評価規準と主な評価材料について

本研究では、「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げよう」と単元を設定し、「伝え合う力を高め、考えを広げる」力を育んでいく。そのためには、国語科における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を育むことが重要となる。そこで評価規準は図1のように設定する。主な評価材料について「知識及び技能」は、原因と結果などの関係を理解しているかどうかを見取るための確かめテストを作成し評価を行う。また、要旨の把握については、学習ノートの記述から、自分の考えをまとめているかは情報分析チャートで評価を行う。さらに、考えを共有し広げているかどうかの評価を成果物で見取る。加えて、伝え合う力の高まりや考えの広がりをOPPシートの記述から見取ることとする。

知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。	①事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	②文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。	③文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	①粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、自分の考えを伝え広げようとしている。
確かめテスト	学習ノート記述	情報分析チャート	成果物	行動・観察
OPPシート				

図1 単元の評価規準と主な評価材料

2 目的意識を持った交流活動について

(1) 目的意識を持った交流活動とは

広辞苑によると目的意識とは「自己の行為の目的についての明確な自覚」と示されている。また、水戸部修治は(2020)「対話を促進するためには、子ども一人一人に対話したい対話せずにいられないといったエネルギーを引き出せるような自発的な意識や、目的意識を持たせることが重要」と述べている。

そこで本研究では、単元のゴール「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げよう」と設定し、課題を解決するために交流活動を取り入れ友達と関わりながら伝え合う力を高め、多様な表現を通じて友達と交流し考えを広げていきたい。しかし、本学級の実態として、自分の考えを明確に持たず交流したり書いた文をただ読み合ったりするだけの交流活動が予想される。そこで「自分の考え」を持ちまとめるための思考ツールや、「いつでも使える交流の技」を取り入れていく。

(2) 「自分の考え」を持ちまとめるための思考ツールについて

黒上晴夫(2017)は、「思考ツールは、子どもに考える方法を示し、考える面白さを伝え、考えることへの関心を高め、考えを人に伝えることをサポートする」と述べている。このことから、思考ツールの活用で児童は文章から得た情報を事例・根拠・主張を比較・整理することで、相互に関連付けて目に見える形で構造化することができると考える。そこで本研究では、文章構成から筆者の主張を

終わり	中	初め	全体の要旨	文章構成
筆者の主張	○○の例	事例の要旨	要旨	
事例1				
②	①	④	③	②
グループでまとめた要点	グループでまとめた要点	グループでまとめた要点	グループでまとめた要点	グループでまとめた要点
初案	見 体	結案		

図2 文章構成を捉える思考ツール(一部省略)

(3) 「いつでも使える交流の技」について

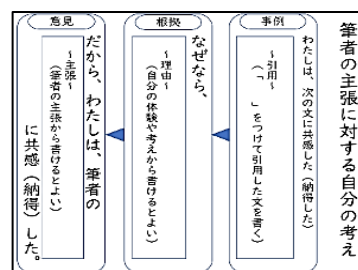


図3 考えをまとめる
思考ツール

本研究では、単元の中で

変容を記号で記入したり、言葉を選んで記述したりできる「交流カード」(図5)を作成し、考えの変容を記録として残し、振り返りにつなげ評価に活かしていく。

3 OPPシートについて

OPPシートは、堀哲夫（2002）が考案した1枚ポートフォリオのことである。堀は「一枚のポートフォリオ評価とは、教師のねらいとする授業の成果を、学習者が一枚の用紙の中に学習前・中・後の履歴として記録し、その全体を学習者自身が自己評価する方法」と述べており、自己評価を行うものとしても有効としている。また、高木展郎（2021）は「主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定することが重要」と述べている。よって、本研究において、単元を通して伝え合う力の育成の実感や、交流後及び学習の前後で自分の考えの広がりをはっきりとさせるために、OPPシー

表1 「いつでも使える交流の技」

交流方法	ねらい	特 徴	場 面
①探しの技	話し合うための「共通の土台」をもたせる。	自分と同じ考えをもっている人はだれか、自分と異なる考えをもっている人はだれかを探す。	いろいろな考えが生まれ、意見が広がってしまったとき。
②準備の技	どうしてそう考えたのか、自分の考えてきた道筋を共有する。	同じ考えを持った仲間同士で集まり、全体交流に向けて、お互いに考えたことを伝え合い、共有する。	反対意見による議論の場や、それぞれの意見を戦わせたりするとき。
③推理の技	相手の考えを推理すること、自分の考えとの比較を促す。	相手がどのような考えを持ち、どうしてそう考えたのかを推理して当てる。	考えが同じでも理由や根拠が異なったり、理由や根拠が同じでも考えが異なったりするとき。
④助言の技	アイデアを得て、よりよい取組ができるように促す。	お互いにアドバイスを送り合うことで、よりよい考えを練り上げる。	書くことに抵抗を感じていたり、よりよい考えを練り上げたりするとき。
⑤質問の技	自分の考えを確かなものにして、意見を明確にする。	相手に質問を投げかけ、どんな考えを持っているのか、どうしてそのように考えたのかを追求し、確かめる。	考えが曖昧（はっきりしないこと）で、はっきりしていない状態が生まれたとき。
⑥相談の技	短時間で取り組み方や考えを共有する。	何人かで集まり、思ったことや感じたこと、考えたことを自由に話し合う。	一人で考えることがむずかしく、なかなか自分の考えを固めることができないとき。

12	11	4	3	2	1	
書く。	・単元の振り返り ・シートへ学習前の筆者の主張を	序論と結論の比較から筆者の主張を読む。 ・単元の考えを伝え、考えを広げる。	文章構成を考える。	・見通しを持つ ・学習課題を設定して学習計画を立てる ・シートへ学習前の筆者の主張を書く。	・単元のゴールを確認し、学習の進捗を確認する ・学習計画を立てる ・シートへ学習前の筆者の主張を書く。	学ぶ
						技
						評価

① ⑥ ①
◎ △ □ ○ ◎
確信 け づ 加 気
信 ず つ っ い
た え た た

図4 「単元計画表」(一部省略)

[illegible]

図5 「交流カード」(一部省略)

トを作成（図6）し活用していく。

本研究において、自身の学びや変容を自覚するために「交流前と後で自分の考えで変わったこと」を書く欄を設け、交流後に記号で記録した「単元計画表」と「交流カード」を見ながら視点を与えて

表現させ（図7）交流を通して考えに変容があったのかを探っていく。

そして、自己評価でもこれまでに書かれた内容全体を見渡して振り返る視点を与えて記述させ、学習前後の変容と効果を見え児童と教師が確認できるようにする。さらに授業後のOPPシートの記述から、交流を通して伝え合う力の高まりと自分の考えが広がったかを見取ることができる。と考える。

図6 OPPシート（一部省略）

図7 OPPシート
（交流後の振り返り）

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げよう」

教材名 「言葉の意味が分かること」（光村図書5年）

2 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【(2)ア】	(2) 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 【C(1)ア】 (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【C(1)オ】 (4) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 【C(1)カ】	(5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝えようとする。

3 単元の評価規準（図1参照）

4 単元の指導と評価計画（10時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
第一次	1 ○「文章の要旨をとらえ、自分の考えを伝え広げる」という学習の見通しを持つ。	・教師作のモデルから単元のゴールを確認させる。 ・感想の書く視点を与える。 ①その通りだ・共感…○ ②分からない・疑問…△ ③考えこと、思ったこと…□	【態度①】 学習課題から、筆者の主張をOPPシートに記入している。 （OPPシート）
	2 ○教材文を読み、感想を持つ。 ○学習課題を設定し学習計画を立て、OPPシートへ学習前の筆者の主張を書く。		
第二次	3 ○文章構成を捉える。 ○交流を通して自分の考えを広げる。 （①探しの技）	・どんなまとまりがいくつあるのか考えさせる。 ・段落にある筆者の主張が、「終わり」でも繰り返し述べられていることに気付かせ、双括型をおさえる。	【知・技①】 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 （確かめテスト） 【思・判・表①】 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 （ノートの記述）
	4 ○序論と結論の比較から筆者の主張を読み取る。 ○交流を通して自分の考えを広げる。 （⑥相談の技） ○序論と結論を確かめる。	・文章構成を捉えるために「構成マトリクス」に整理させる。 ・「はじめ」と「おわり」に同じ言葉がくり返し使われていて強調していることに気付かせられるように指導する。	
	5 ○細部（本論）のまとまりを読み、原因と結果の関係を理解する。 ○原因と結果の関係を考える。	・「構成マトリクス」を活用して「問い」に対する「答え」と「説明の部分」を区別し、まとまりが捉えられるように指導する。	

	6	○要約する（要約シート） ○交流（④助言の技）を活用してお互いにアドバイスをし合いよりよいものに仕上げる	・「構成マトリクス」を参考にすることを助言する。	【思・判・表②】 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。（情報分析チャート）
	7 【検証】	○「言葉の意味が分かること」の要旨をまとめる（学習ノート） ○交流（④助言の技）を通してお互いに「要旨のまとめ方」ポイント①～④をもとにアドバイスをし合う。 ○書き直す。	・「要旨」の意味をおさえる。 ・「要旨のまとめ方」条件を全体で確かめる。 ①筆者の考えをまとめる ②使うキーワード3つ ③140～150字でまとめる ④文意が通るようにまとめる（常体） ・「構成マトリクス」「要約シート」「全文シート」を参考にすることを助言する。 ・支援を要する児童には「要約ヒントカード」を与える。	
	8	○文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる。 （情報分析チャート） ○交流（④助言の技）を通してお互いにアドバイスをし合い、自分の考えをよりよいものにする。	・「自分の考えをまとめる」条件を全体で確かめる。 ①事例…引用文「 」をつける ②根拠…自分の体験や考えから ③意見…筆者の主張から ④文意が通るようにまとめる（常体） ・「自分の考えのまとめ方」①～④を視点に読み合うことを助言する。	
第三次	9 【検証】	○文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを広げる（①探しの技） ○交流カードを記入し渡す。 ○自分の考えを見直す。	・交流の目的と方法を全体で確かめる。 ・互いの根拠の違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりできるように、友達の考えに対する「違いや良さを表現する（言葉）」を一つ選び、その言葉を使って「交流カード」に記述させる。	【思・判・表③】 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し自分の考えを広げている。（成果物） 【態度①】 粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し自分の考えを伝えようとしている。（行動観察）
	10	○OPPシートへ学習後の筆者の主張を記述する。 ○単元全体の振り返りをする。	・「筆者の主張」の記述から、学習前後の変容に気付かせ、学びを実感させるようにする。 ・OPPシートの記述より伝え合う力や自分の考えの変容を振り返らせる。	

5 本時の学習指導（9/10 時間）

(1) 本時の目標

文章の要旨をとらえて自分の考えをまとめ、交流活動を通して自分の考えを広げることができる。

(2) 学習指導過程（導入3分 展開32分 まとめ10分）

過程	○学習活動・内容	◇指導上の留意点	評価規準（方法）
導入	○前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しを持つ。 ○本時のめあてを立てる。	◇学習計画表より、前時でまとめた自分の考えを共有し、考えを広げることを確かめる。	【思・判・表③】 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（成果物） 【態度①】 粘り強く文章全体の構成を捉えて要旨を把握し自分の考えを伝えようとしている。（行動観察）
展開	○交流の目的を確認する。 ・目的…筆者の主張に対して共感したのか疑問に思ったのか。なぜそう考えるのかを探るために交流をする。 ・方法…3人グループで回し読みをした後、「交流カード」によいところを記述して読みながら渡す。 ○交流（①探しの技）を通して、互いの考えの違いを明らかにしたり考えのよさを認め合ったりする。 ・自分が思った言葉の一つを選んで○をつけ、その言葉を選んだ理由を添えて、友達の考えのよさを交流カードに記述して渡す。 ○文章を見直す。 ○自己評価をする。	◇「いつでも使える交流の技」より、交流の目的から技を選択できるようにする。 ◇互いの根拠の違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりできるように、友達の考えに対する「違いや良さを表現する（言葉）」を一つ選び、その言葉を使って「交流カード」に記述させる。	
まとめ	○本時のまとめをする。 ○学習の振り返り。 ○次時の活動を確認する。	◇OPPシートに交流活動を通しての考えの変容を振り返らせる。	

IV 仮説の検証

研究仮説に基づき、目的意識を持った交流活動とOPPシートを位置付けた授業づくりを行うことで、伝え合う力を高め考えを広げることができたかについて、学習ノート記述、思考ツール、成果物OPPシートの記述、事前・事後アンケートを基に検証を行う。

1 目的意識を持った交流活動について

(1) 「自分の考え」を持ちまとめるための思考ツールについて

本研究においては、目的意識を持った交流活動にするために自分の考えの材料となる根拠を明確に持つことを大事にし、整理してきた思考ツールをもとに自分の考えをまとめてきた。以下、「自分の考え」を持ちまとめるための思考ツールが有効であったかを考察する。思考ツールの活用は第4、5、8時に設定した。

第4時「筆者の主張」の読み取りや第5時「本論のまとめ」の課題に対し、児童は整理してきた構成マトリクス（図8）を活用し文章構成を捉え「『中』には、言葉の意味のはんいや広がり」のことを事例と原因を使って納得させる文を書いていた」と振り返った。それに基づき「原因と結果の関係」の確かめテストにおいて8割以上の児童が理解することができた。

第8時「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」課題に対し、考えをまとめるために必要な視点を与えた「情報分析チャート」を取り入れた。ここでも児童らはこれまでに学習してきた「構成マトリクス」と「要旨」「要約文」を参考にしながら、自分の考えをまとめてきた（図9）。児童Aは、「根拠に体験や具体例を書くと説得力がでると気付いた」と振り返っていた。

おのり		中		はじり	
1	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
2	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
3	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
4	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
5	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
6	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
7	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
8	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
9	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや
10	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや	言葉の意味のはんいや

図8 児童の整理してきた「構成マトリクス」

意見	根拠	事例
言葉の意味には広がりがあり、言葉やものの見方を見直すことにもつながる。	私も小さいときに花がかわれたことを茶色になったといった。だから、歯でくちびるをふんじったに共感した。	「歯でくちびるをふんじった」と「言葉の意味のはんいやを広げて使いた」という文に納得した

図9 児童Aの記述

これらのことから、構成マトリクスで、文章全体をクラス全員で俯瞰できるため「整理する」という視点から「比較」という視点へ自然と誘うことができ自分の考えを持たせるための材料となった。そして、情報分析チャートにおいては集めた情報「事例」から筆者の主張を検討し、また根拠となる事実の重要性を意識し自分の考えをまとめることができた。よって思考ツールを取り入れることで児童の思考を活性化させ、自分の考えを持ちまとめるために有効であったと考える。

(2) 「いつでも使える交流の技」について

第2次において、全7時間のうち前述の「自分の考え」のつながりも含め図1の評価規準に照合しながら第7、8、9時をノート記述と成果物、OPPシートの記述より検証していく。

第7時「要旨をまとめる」に対して、既習内容や構成マトリクスを活用しながら要旨をまとめてきた。しかし、ある程度時間が経つと、児童から「考えを持ったものの自信がないから意見をもらいたい」という声があがった。そこで掲示物や手元にある「いつでも使える交流の技」を見ながら何の技が効果的か考え「④助言の技」を選択した。その後全員で交流の目的「よりよい要旨にするため」や「ノートを持ってアドバイスをもらいたい人の所へ行って交流する」という方法の確認と「要旨のまとめ方」の条件（図10）を再確認した。児童Bは、はじめ一人

で考えていたがどういうふうに書いていいのかわからず困っていたので技が使えないか声掛けをした。しばらくするとどんなふうに書いているのかを見て回り最終的には友達と助言の技を使い条件を意識して交流している姿がみられた。また児童Bの交流前の要旨を見てみるとキーワードが1つしか使われておらず字数も満たしていなかったが交流後は、筆者の考えやキーワード、字数制限などの条件を意識して要旨をまとめることができた(図11)。さらに交流後の振り返りには「アドバイスのおかげで書き方が分かった」と記述しており、学習後のアンケートには「交流ができて、分からなかったことも友達のアドバイスでできた」と記述する姿が見られた。評価基準に沿って評価を行うと表2のようになった。助言の技を使った交流活動の後にはC評価の児童9名がB評価もしくはA評価へと上がった。

第8時「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをとめる」の課題では、情報分析チャートに自分の考えをまとめた後「技を使いたい」と児童の要望があった。交流の目的「どうしてそのように考えたのか互いに質問し合い、次の時間の交流に向けて自分の考えを確かめる」から児童らは「⑤質問の技」を選択し各班を自由に回る方法と「考えのまとめ方」の条件を再確認した。児童Cの交流前の情報分析チャートを条件と比較すると事例には引用文から抜き出し、根拠には自分の考えを明確に記述することができている。しかし、意見の部分が条件から逸れ文章中の事例の部分から記述していたが交流後には筆者の主張(抽象部分)から記述をし直しをしたことが分かる(図12)。評価基準に沿って評価をした結果、質問の技を使った交流活動を通して約9割の児童が条件に沿って自分の

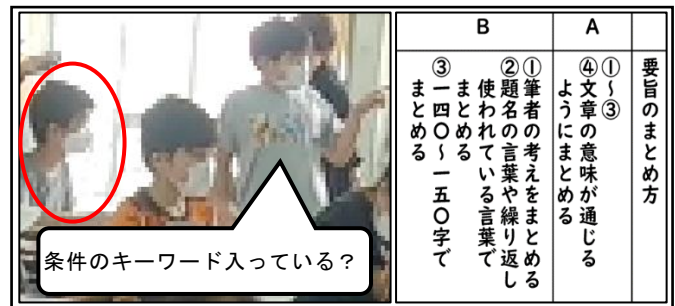


図10 条件を意識した交流(助言の技)

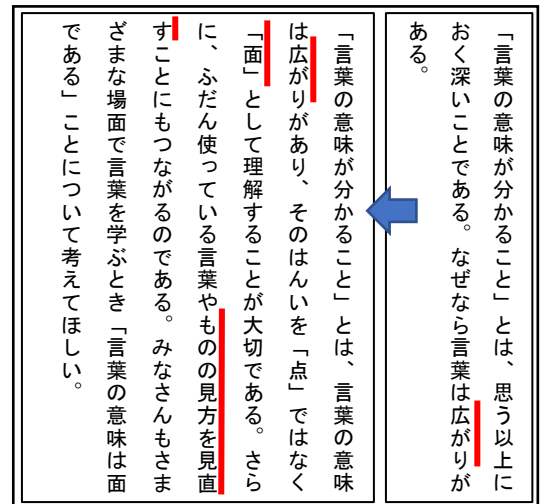


図11 児童Bのまとめた要旨

表2 「要旨の把握(交流前後)」
評価ごとの児童の割合(n=26)

	評価基準	児童の割合	
		交流前	交流後
A	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて文章全体の構成を捉え条件にそって要旨をまとめることができる。	12%	61%
B	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて文章全体の構成を捉え要旨をまとめることができる。	50%	35%
C	B以下	38%	4%

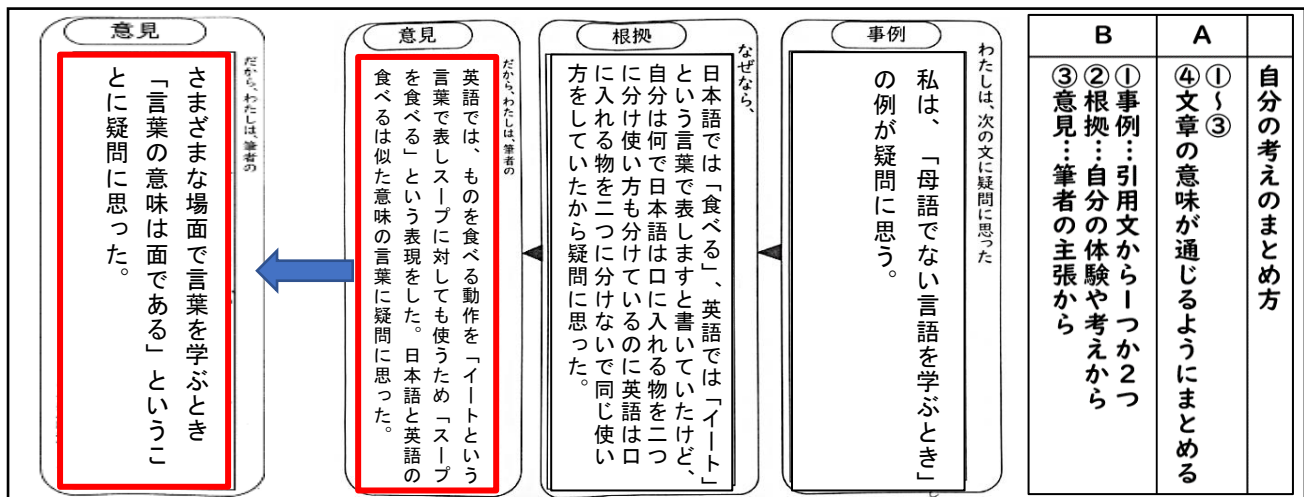


図12 交流後の児童Cの情報分析チャート(一部省略)

考えを確かにしながらまとめることができた（表3）。

第9時の「まとめた自分の考えを共有し自分の考えを広げる」課題に対して、児童から「共有だから交流の技を使うということだね」と発言があった。それを受けて「筆者の主張に対して共感したのか疑問に思ったのか。なぜそう考えるのかを探るために交流をする」といった目的から「①探しの技」を児童が選択し、3人グループで回し読みをした後「交流カード」によりよいところを記述して読みながら渡すという方法を確認して交流活動に移った（図13）。児童Cは、交流カードをもらい自己評価をしたところ「自分の直すところはもう少し伝わるように書けるとよかった」と記し図14のように自分の考えに言葉を増やし伝わる文章にしてまとめる姿が見られた。また、交流前後で比べると、探しの技を使った交流活動を通して約9割の児童が自分の考えを広げることができたといえる

（表4）。表3でC評価の児童2名から表4では1名へと減少したがこの児童は最後まで自分の考えをまとめることができずにいたので今後は自分の考えをまとめる段階で更なる工夫をしていく必要がある。また、自分の考えをまとめたり交流をしたりすることに抵抗を強く感じていた児童Dはアンケートでも「自分の考えを見せたくない」などと全体的に否定的な回答をしていた。図15は、第9時に児童Dが記述した「交流カード」である。カードの真ん中に自分で「いい考えたと思った」と言葉を付け加え、友達の考えの良さを交流カードに記述して渡す姿が見られた。学習後のアンケートでは身に付いた力として「友達の考えを参考に自分の考えに生かすことを意識するようになった力」を選び「友達の考えを読むと、そういうことかって分かるから」と理由を記述していた。単元を通して隣や後ろの友達と少しずつ交流をする姿や自分の考えをまとめようとする姿が見られるようになったことから、目的意識を持った交流活動が有効な手立てであったと捉え、継続して取り組んでいきたい。このことから、目的に合った交流を取り入れることで、伝え方を工夫したり自分にはなかった考えを得たりして考えを広げることの育成に有効であったと考える。加えて、自分の考えの材料となる根拠を明確に持つことで、目的を持った交流活動に発展することができたともいえる。

表3 「自分の考えをまとめる」
評価ごとの児童の割合（n=26）

	評価基準	児童の割合
A	文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを条件にそってまとめることができる。	40%
B	文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。	52%
C	B以下	8%



図13 探しの技を使った交流

に 思 っ た。	言 葉 を 学 ぶ と き 言 葉 の 意 味 は 面 で あ る に 疑 問	て い た か ら わ た し は 疑 問 に 思 っ た。	う 使 い 方 を す る の に 英 語 は 同 じ 使 い 方 を し	に 自 分 は 何 で 日 本 語 は 食 べ る の は 飲 む も ち が り	で 食 べ る は イ ー ト と い う 言 葉 で 表 し ま す。 と 書	問 に わ た し は 、 母 語 で な い 言 語 を 学 ぶ と き に 疑
-------------------	--	--	---	---	---	---

自分

事例30

自分の考えのまとめ方は、事例を書いた自分でもよかったと思います。自分の直すところは、もう少し伝わるようにかけるとよかったです。

図14 交流後の変容（児童Cの記述より）

表4 「自分の考えを広げる」
評価ごとの児童の割合（n=26）

	評価基準	児童の割合
A	文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを広げ直しをすることができる。	76%
B	文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを広げることができる。	20%
C	B以下	4%

なるほどと思った	いい根拠だと思った	似ている考えた
〇〇がいなと思った	いいかんがえだと思った	ちがう考えた
こういう考えもあるんだと思った	ぶかい根拠だと思った	面白い根拠だと思った

図15 児童D交流カード（一部）

2 OPPシートの効果

交流活動を通して伝え合う力の高まりと考えに変容があったかを探るために「単元計画表」に記入した記号と第9時においては「交流カード」を基にしながらOPPシートに記述から考えの変容を考察する（図16）。

第3、4、7、8、9時の交流活動後、児童EのOPPシートから表5の通り記述しており、相手の考えがよりよいものになるよう伝え方を工夫したことがうかがえる。また、自分の考えになかったものを得て考えが変わったり、考えをよりよいものにした自信へとつなげることができたと言える。

また、単元終了時に「OPPシート全体を見て学習前と学習後の内容を比べて思ったこと感じたことを書きましょう」の問いに、表6のように記述したり、表6の記述以外にも「自分の考えが上手く伝えられるようになった」や「目的意識を持って交流することで自分も相手も考えが広がる」「できる事が増えた」「OPPシートがはじめのころより詳しく書けるようになった」などと自己評価をしたりする児童の姿が見られた。よって、OPPシート全体を見て振り返ることでこれまでの学びを客観視し学習の成果を自己評価できたことがうかがえる。

さらに、表7のように学習最後に児童がつけたタイトル「自分のあしあと」から、自己の変容に気づき毎時間の積み重ねを実感している様子や保護者のコメントからも今回の学習の頑張りや今後の学習への姿勢等について家庭で話し合った様子がうかがえた。

このことから、交流後の考えの変容を振り返り記述していくことで、相手に自分の考えが伝わったか、考えにどのような変容があったかなど、自身の学びや変容を自覚できる場面となり、達成感にもつながったと考える。加えて、OPPシートを繰り返し活用することで伝え合う力や考えが広がったかどうか変容を見ることにも有効であったと捉える。

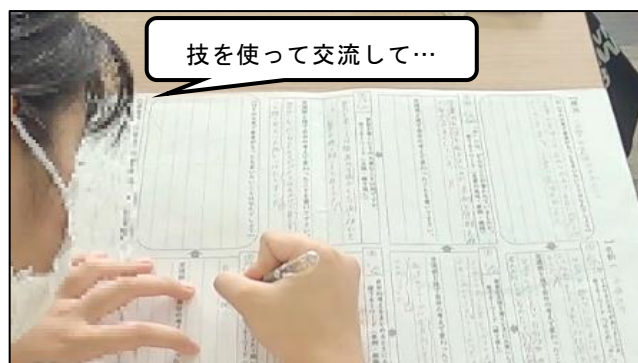


図16 OPPシート

表5 交流後OPPシートの児童の記述

児童E	記述
3時	①の技を使って〇〇さんの説明で、こんな考えもあるんだと気づき、自分の考えが変わりました。
4時	助言の技を使って、〇〇さんの考えと同じだったので、自分の考えが大丈夫なんだと確信しました。
7時	④の技を使って、〇〇さんに接続詞をいれるといいよとアドバイスをして直しをしていたので、〇〇さんの要旨がよかったので嬉しかったです。
8時	交流前は文章が成り立ってなくて変だったけど、〇〇さんの質問で根拠がくわしく書けて文章もよくなりました。
9時	交流前では、自分の考えがしっかり書かれていなかったけど、〇〇さんのおかげで自分の考えは広がり、しっかりと書けました。

表6 児童の自己評価

「OPPシート全体を見て、学習前と学習後の内容を比べて、思ったこと感じたことを書きましょう」	
視点	記述
できるようになったこと	- 自分の考えをまとめたり、要旨をまとめたりすることができるようになった。 - アドバイスをして友達の考えがよくなったり、友達からアドバイスを受けてその考えを参考にまとめたりしたこと。
交流を通して学んだこと	- 友達と交流して自分の考えを広げたり付け加えたりできることが分かった。 - その場面にあった交流をすると自分の考えがまとまる。 - 最初は自分の考えに自信がなかったけど、同じ意見の人や自分の考えをほめてくれたりしたので自分の考えに自信が持てて交流のよさを学んだ。
学習したことをどうかしらしていきたいか	- 他の学習でも自分の考えを伝えたい。 - 他の授業でも友達と交流して考えを広げたい。

表7 OPPシート表面

OPPシート表面記述	
児童	自分のあしあと
保護者	「お友達と交流することで、新しい発見があり、自分の意見や考えがまとまって、根拠がもてるようになり、いい経験ができたね。これからの文章力や意見文、文章を読み取る力を楽しみにしています」
教師	学習前と後の「筆者の最も言いたいこと」に深みがでていますね。交流を通して、自分の考えに自信が持てるようになってうれしいです。考えも広がりいい学びになりましたね。これからも、この学習で学んだことを生かしてってください。

3 「伝え合う力を高め、考えを広げる」について

伝え合う力の高まりや考えの広がりアンケート結果と記述より考察していく。

まず、「自分の考えを友達や学級の人々に伝えることはできますか」の設問に、「できる・まあまあできる」と肯定的な回答をした児童は79%おり検証前から47ポイント増加した(図17)。その理由として「自分の考えをまとめることができたから」と記述していた。一方で「あまりできない・できない」と否定的な回答をした児童が5名おり、理由に「学級みんなに伝えるのは難しい」や「はずかしい文が下手だから」と挙げていた。前者の児童に対しては、小集団なら自分の考えを伝えることが可能で交流活動が効果的だと捉えることができる。後者の児童らには、個々に合った交流活動を工夫していく必要性を感じた。

次に「何のために交流活動をしているか考えながら交流していますか」の設問に対して、肯定的に回答した児童は91%おり検証前より31ポイント増加した(図18)。「その場面にあった交流をすると自分の考えがまとまったり広がったりした」や「技を使ったらわかりやすいスムーズにいくからやりやすかった」と理由に挙げていた。

そして「伝え合う力が高まったり、考えが広がったりしたと思いますか」の設問には、表8のように「これまでは自分の考えを伝えることができなかった」「最初はできなかった」と記述する姿が多く見られた。このことから、自分の考えの材料となる根拠を明確にし、目的意識を持って交流活動を行うことで工夫した伝え方ができるようになり、多様な考えを得て考えを広げることができたと捉える。

以上により、目的意識を持った交流活動とOPPシートを位置付けた授業づくりを行うことで伝え合う力を高め考えを広げることができたと考える。

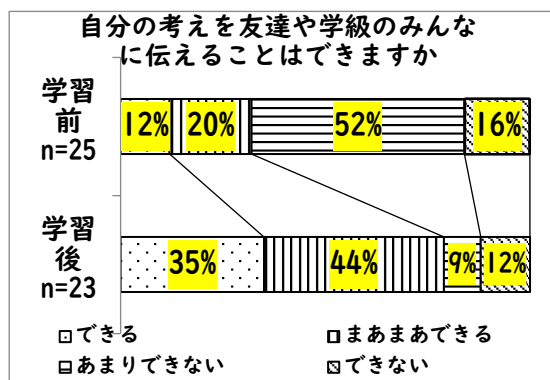


図17 アンケートの結果

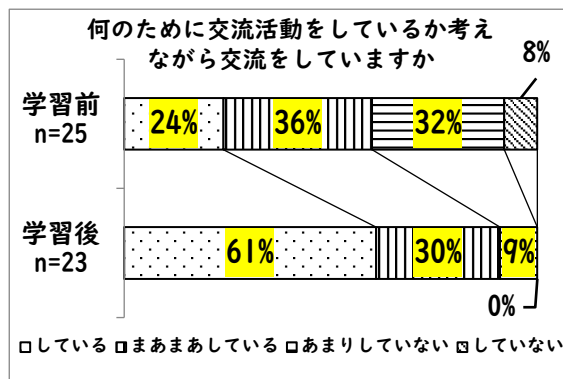


図18 アンケートの結果

表8 アンケートの記述より

伝え合う力が高まったり、考えが広がったりしたと思いますか

○この学習をする前は交流をしてもあまり考えを伝えることができなかったけど、学習をしていろんな人に考えを伝えることができたのでこれからも意識していきたい。

○最初はできなかったけど、この学習で考えをまとめる、自分の考えを友達に伝えることができ、自分の考えを広げられたので他の学習に生かしていきたい。

V 成果と課題

1 成果

- (1) 目的意識を持った交流活動を行うことで、児童は自分の考えを支える根拠や材料を明確にし、交流する目的や内容を具体的に意識しながら伝え、考えを広げることができた。
- (2) OPPシートを位置付けた授業づくりを行うことで、交流活動の軌跡を振り返ることができ、伝え合う力の高まりと考えの変容を児童自身が実感することができた。

2 課題

- (1) アンケートで否定的な回答をしている児童や課題解決が不十分な児童へは、スムーズに学習できるよう、個に応じた更なる手立ての工夫改善が必要である。
- (2) 学んだことを他教科でも生かせるよう関連的な指導計画を作成することで、指導の効果を高める必要がある。

〈参考文献〉

- 沖縄県立総合教育センター 2021 『令和2年度調査研究報告書』 沖縄県立総合教育センター
- 菊池英慈・樺山敏郎・折川司・高木展郎 2021 『小学校国語科授業づくりと学習評価』 明治図書出版
- 白石範孝 2021 『論理的に思考する「考える国語」の授業づくり』 明治図書出版
- 樋口綾香 2021 『子どもの気づきを引き出す！国語授業の構造的板書』 学陽書房
- 堀哲夫 2021 『一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』 東洋館出版社
- 三浦剛 2021 『自ら動いて読みを深めるフリー交流 6つのバリエーション』 東洋館出版社
- 水戸部修治 2020 『教育科学 国語教育』 明治図書出版
- 田近洵一・井上尚美・中村和弘 2018 『国語教育指導用語辞典（第五版）』 教育出版
- 田村学・黒上晴夫 2017 『「深い学び」で生かす思考ツール』 小学館
- 文部科学省 2017 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 東洋館出版社
- 白石範孝 2016 『国語授業を変える「用語」』 文溪堂
- 新村出 2008 『広辞苑（第六版）』 岩波書店

〈参考 Web サイト〉

言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm（最終閲覧 2022 年 6 月）